

関西大学考古学資料瓦経片の復原 補記

網 干 善 教

関西大学所蔵の考古学資料である瓦経片について復原を試みた結果について、先きに『史泉』第五二号（昭和五十三年二月十日発行）に記述した。

そのうち④に挙げた「大毘盧遮那成仏神変加持経」巻第二「普通真言藏品第四」の破片について、最近、愛知県碧南市鷺林町在住の水野孝夫氏所蔵瓦経片の呈示をうけ、これを調べたところ、以下述べるようなことが判明したので補記したい。

水野氏所蔵の瓦経片の表面に

..... □ 慧真言曰

南麼三曼多勃駄.....

地藏旗真言曰

ろろろろろろろろ □

寶處真言.....

南麼三.....

寶手.....

南麼.....

とあり、これに対する裏面に

持地 □

南麼.....

復次真.....

南麼三曼多 □

寶印手真言曰

南麼三曼多勃駄.....

堅固意真言

□ □ □ 三曼多勃駄

とある。これは『大日経』の「普通真言藏品第四」であるが、『大正新脩大藏経』と同定し、復原すれば次のようになる。

〔表〕 除一切熱惱真言曰

南麼三曼多勃駄喃一縷

不思議慧真曰

南磨三曼多勃駄喃「汚

地藏旗眞言

れれれれれれれれ □

宝處眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「難上

宝手眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「衫

〔裏〕持地眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「喚

復次眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「髻

宝印手眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「泛普反
含

堅内意眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「赦

先ず、この瓦経片は、関西大学蔵の瓦経片に連ることがわかる。

第二点は、関西大学蔵の破片を復原した際、文字の判

読できるところが二字しかなかった。したがって一応表裏を決めて考察したが、その際に結論として「以上のよう

な次第で、この瓦経はどうにも不合理な点をもっている」との疑問をのこしておいた。ところが、水野氏蔵の瓦経片によって表裏を反対にすればよいことが判明した。すなわち「縊」は

除一切熱惱眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「縊

となる。この場合次の「地藏旗眞言曰」と「悉曇」の部分は經典にはない。また「赦」は

堅内意眞言曰

南磨三曼多勃駄喃「赦

となる。

次に各地の『蘇悉地羯羅』の破片の資料が増加し、同定してみると、「別本一」の書写よりも「別本二」による書写が多いことが判明してきた。したがって「関西大学考古学資料瓦経片の復原」の「その一」に相当する『日本文化史論叢』に挙げた④の資料は「別本二」の『巻下』「経光物品第三十四」、⑤は『巻中』の「補闕少法品第十五」とも考えられる。ただ瓦経にみられる文字の部分は「別本一」も「別本二」も同文である。